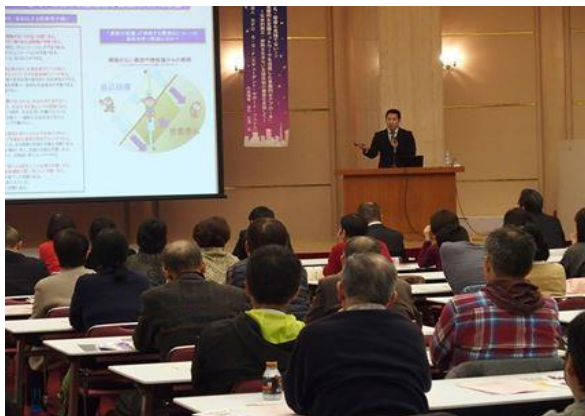


法人設立2周年記念シンポジウム 「こどもの居場所」

おかげをもちまして法人設立2周年を迎えることができました。その記念としまして去る12月18日「こどもの居場所」というテーマのもとシンポジウムを開催することができました。その様子をお知らせいたします。

【第一部】基調講演として、「NHK プロフェッショナル仕事の流儀」にとりあげられたことでも有名なアウトリーチ支援の実践者「谷口仁史さん」(佐賀 NPO スチューデント・サポート・フェイス代表理事)をお迎えし、基調講演をいただきました。「どんな境遇の子ども・若者も見捨てない！」という「志」から多くの学びをいただくことができました。



＜基調講演の様子＞

【第二部】 パネルディスカッション

「こどもの居場所」をテーマに当法人理事でもある大分大学福祉健康科学部学部長の衣笠一茂先生にコーディネーターをつとめていただきました。

パネリストとして、

杵築市市長 永松 悟 様
大分県中央児童相談所 所長 高山 英明 様
大分県弁護士会子どもの権利委員会 委員長
弁護士 生野 誉士 様

にご登壇いただき、それぞれの立場から「こどもの居場所」について熱いお言葉をいただきました。



＜パネルディスカッションの様子＞

当日は、200名以上の方々にご参加いただき、あらためて子ども若者支援に関心をもってくださっている方々のたくさんの想いを感じることができました。

私たちもまたできることから始めていきます。

ありがとうございました。

参加された方々の声

○子どもたちのことを認め、受け容れ、肯定する社会になるために大分で、全国でご活躍されている皆様に教えていただきながら出逢う子どもたちと向き合い進んでいきたいと思えます。

○とても良い機会(シンポジウム)をいただいたと思います。個々にできることから支えていきたいと思えます。

○普段聴くことのできない現場で子どもたちに接する話を聴けて改めて問題を抱えた子どもとの接し方などについて考え直す良い機会になりました。

○県民の一人として自分でできる子どもたちへの支援をしていきたいと思えました。

その他、たくさんの「おいた子ども支援ネット」へのご理解・励まし・応援のメッセージをいただきありがとうございました。

オレンジボンたすきリレー



11月は、「児童虐待防止推進月間」。大分県でも、行政や児童福祉に関わる方々が子どもの虐待防止を訴え、別府市から大分市の14キロを児童虐待の防止を訴えて、歩きました。

11月19日には、「九州中部横断たすきリレー」と題し、大分駅～熊本城を目指すプロジェクトが開かれました。2015年に日



本一周を達成された、井上幸夫氏と大分駅～豊後萩駅までの56kmを大分県の児童福祉に携わる職員が伴走。今年は、「熊本復興支援」も掲げて走りました。その中に、当ホーム職員も参加しました。「貴重な体験をさせていただきました。」（参加スタッフ談）

沿道で応援していただきましたみなさま、関係スタッフのみなさま、ありがとうございました。

近況・ようす・あんなことこんなこと

3月、立春も過ぎ、春風が頬に気持ちよい季節。新しい生活に向けてお過ごしもことでしょう。自立援助ホーム「みらい」放課後等デイサービス「なないろ」、そして子どもシェルター。さらに、「きつきプロジェクト」の近況をご報告いたします。



【みらい】自立援助ホーム

昨年5月に正社員となった2名の児童も日々仕事に汗を流しています。

冬の間は、通勤がとにかく寒い。おまけに総合土木工業で働くY児は、当然ながら現場も外。大分市内はもちろん、県内のあちらこちらの現場での作業を行っています。最近、自分が詰めた「約40kgの土嚢」が各現場で使われるようになり、正社員としての自覚とやりがいを感じています。



最年長のS児。市内の福祉施設で介護職員として働いています。利用者の方々が「ありがとう。」と、言っ

てくださることが、今は、責任とやりがいになっているみたいです。

湯布院の料理屋さんで見習い修行をしているS児は、とにかく朝霜が降りていたり、雪が舞っていたりする中で仕込みが始まる毎日。お客さんもアジア（韓国・中国など）からの観光客も多く、接客の難しさと勉強の毎日です。

そして、うちには、高校生のT児もいます。この3学期は、職場実習に参加しました。春から高校3年生。いよいよ卒業後の進路を考える時期になりました。



緊急一時保護した事案もありました。「これからがこれまでを決める」という気持ちで生活。次へ進んでほしいものです。

みんな、寒さに負けず、がんばっています！
春が、待ち遠し〜い。

【なないろ】放課後等デイサービス

仲間が増えて、体験活動も充実してきました。

10月には、ジャガイモを植えました。大きく育ったジャガイモを2月に収穫。



笑顔いっぱい「おいしい！」と6年生の男の子もジャガイモを頬張っていました。自分たちの手でひとつひとつ丁寧に植えて、育ったジャガイモ。いつものジャガイモとは、また違ったおいしさを感じたことでしょう。協力いただいているNPOの方々から、「ミニ門松」のつくり方を習いました。家に持ち帰り新年を打変えま



した。なないろの玄関にも子どもたちがつくった「ミニ門松」を飾りました。鏡餅も12月に餅つき大会をしてつくったお餅です。その横には、元気な書初め作品が展示されました。



こどもたちの元気な成長に向けてなないろスタッフと保護者、そして、地域で様々な活動をされている方々との協力の大切さを実感しました。

きつきプロジェクト

インターンシップが実施されました！

「福祉（子どもたち）と地域課題をつなげる」

12月杵築市山香で酪農を行っている事業所に児童養護施設の高校生2名が、職業体験をしました。今回は、杵築市にあるアパート（法人所有）で、自活



しながら仕事を体験するという「ひとり暮らしの疑似体験」を実施。施設の入所時から「ひとり暮らしと就労の体験を同時に行う」ことで、施設退所に向けた準備や意識の向上、そして、就業の定着が狙いです。

2人の高校生は、朝早くから起きて、朝食を食べて、仕事をする。帰ってきて汗を夕食の準備から片付け、そして就寝。の一日のサイクルを体験しました。

夏の体験活動の経験者だけあって、仕事の動きは、慣れたものでした。アパートでの食事づくりも施設で実習を受けているらしく手慣れたものでした。



寒風の中、一生懸命に取り組んだ2人と受け入れをしていただいた「田畑牧場」のみなさまにあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

職員紹介

こどもの支援を考える

事務局次長・副所長 中野 誠司

これまで

公立中学校で教員をしていた私は、指導計画にもとづき指導案を作成し、学級指導・生徒指導・部活動指導と、いわゆる「指導」を24年間行ってきました。

私が、「支援」という言葉に出会ったのは、13年前に大分県の児童自立支援施設「二豊学園」で務めた時代でした。

教育委員会から出向して児童実支援施設にいた当時、「支援」ということばについて考えることもなかったように思えます。

こどもの支援に関わるようになり

当法人、おおいた子ども支援ネットで子どもたちと関わらせてもらい2年が経過しました。この2年を過ごす中で、あらためて「支援」について考えてみました。

おおいた子ども支援ネットは、「児童自立生活援助事業」として自立援助ホームと子どもシェルターを「障害児通所支援事業」として放課後等デイサービスを行っているNPO法人です。

ここで出会う子どもたちや家族は、困難を抱える子ども・生きにくさを感じている子ども、育てにくさを感じる家族です。その子どもや家族の「居場所」づくりを考え・みつけ・選択させ・提供する。ことが「支援」と考えています。

つまり、その居場所づくりの手段としておおいた子ども支援ネットがあると考えています。

自立援助ホーム＝みらいでは、人間力・生活技術・社会的責務を子どもたちと職員がともに磨いていくことを目標にしています。放課後等デイサービス＝なないろでは、がんばりあう力やかかわりあう力を身に着けるために毎日職員が、子どもたちといっしょに考えて向き合っています。

さらには、昨年28年度より「経済的自立・社会的自立」を目標として杵築市からの委託事業「きつきプロジェクト」を行っています。

これからの目標

平成29年度、「きつきプロジェクト」は、児童養護施設で生活するいわゆる社会的養護環境の子どもたちは、もちろん。さまざまな困難な中で生活する子どもたちを対象を広げました。

受入事業者の方々も体験活動からインターンシップ、さらには、就農といろいろなパターンでの受け入れを予定していただいています。新しいスタッフも迎えました。新しいスタッフとも力を合わせこれからも子どもたちの「居場所」づくりのための「支援」を続けていきたいと考えています。



弁護士さんとの学習会が始まりました！
(自立援助ホームみらい)

当法人の「最強弁護士軍団」。こどもたちのために「弁護士軍団学習会」を月1で開催することになりました。

例えば「13歳の万引きと14歳の万引きはどう違うのか？」これを少年法という背景から、弁護士の皆さんに説明いただく。説得力が違います！

「みんな大好き。お金の話」からはじまり、「結婚や異性について」そして今回は、理事長自らが登場し「交通法規と交通事故」について。

ホームのこどもたちもとても楽しみな時間です。実は職員が一番勉強させられていることは言うまでもありません。大分県弁護士会の有志のみなさま！ありがとうございます。



編集後記:「今年度もたくさんの方々に支えていただきました！感謝！感謝！感謝！」
～たくさんの方々の善意に支えられて活動させていただいています～

児童自立生活援助事業・放課後等デイサービスも2年目を迎え、こどもたちの成長がうかがえる場面が増えてきました。こどもたちの笑顔に励まされながら今後も法人一同努力いたします。

また、2周年記念で開催させていただきましたシンポジウムには多くの方々のご参加をいただきましたこと重ねて御礼申し上げます。基調講演・パネルディスカッションを通じて参加されたみなさまの「真剣な眼差し」が印象的でした。今後もこども支援現場から様々な発信を行いたいと思っています。

今年度もたくさんの方々の善意に支えていただきました。会員様になっていただいたり、ご寄付をいただいたり、ちょっと寄ってくださったり、励ましをいただいたり、格安で施設修繕をしていただいたり…あらためて「社会の暖かさ・人間の温かさ」を痛感しております。何卒、今後とも変わらぬご理解・ご協力・ご支援のほどよろしく願いいたします（ご紹介できる企業や法人、個人のみなさまは次号掲載いたします）。

「すべてのこどもたちに明るい未来を！」

新年度も法人一同、力をあわせてこどもたちの幸せのために頑張っていきます！

どうぞ、みなさまも良い初春をお迎えくださいますよう。次年度もよろしくお願い申し上げます。

ご意見・ご質問等あれば電話もしくはメールにてお尋ねください。
おおいた子ども支援ネット事務局 TEL: (097) 507-5417 mail: oita-kodomosien777@oct-net.ne.jp